

2008年1月31日発行



今回の紙面から (ページと内容)

- 1 会長挨拶
日本英語学会国際春季フォーラム
のご案内
第26回大会のご案内
- 2 研究発表応募規定の改定について
- 3 ワークショップの企画募集
- 4 理事会・評議員会より
- 5 日本言語学会シンポジウムへの協賛について
編集委員会より
*English Linguistics*第25巻2号への
投稿についてのお知らせ
- 6 大会運営委員会より
- 7 学会賞選考結果
「日本英語学会新人賞」論文募集の
お知らせ
- 8 著作権規程について
事務局の移転について
学生会員の登録について

会長挨拶

会長 天野 政千代

学術団体は自発的意思によって会員になった人々によって構成され、運営されていけばよいのでしょうか、そこになぜか『評価』というものが入ってきます。学術団体であるからには研究水準の高さが問われるのは当然で、その意味での評価なら今に始まったことではないでしょう。ところが、最近では学会の評価が大学や研究機関の評価とどこかで結び付いて、学会活動に時にはあまり嬉しくない影響を与えてきているように思います。

その最たるものが科学研究費補助金であります。平成20年度科研費の申請に際しては、過去3年間に海外から応募がなかった学会機関誌は審査の対象にもならない、という趣旨の説明が学術振興会からありました。そこには表面的な形式的評価のみがあり、研究水準や内容に対する評価が抜け落ちているのです。申請に伴う作業量もますます膨大化しており、科研費申請を断念した学会もあると聞いております。これは本会の理事会でも

話題となり、何をもって国際化というのか、その真意を学術振興会に確認すべきとのご意見もありました。

しかし、私たちの財政状況からして最初から科研費の申請を断念することもできず、田中事務局長にお願いし、平成20年度も申請はしましたが、採択の保証はないばかりか、採択されても従来のような金額は期待できません。申請金額は機関誌出版経費の50%までと制限されてもいます。印刷代、会議費、人件費、通信費等を中心に年間400万円程度の経費削減を実現し、健全財政を目指したいと考えています。

財政の立て直しはもちろん重要ですが、そのことが学会活動の停滞を招くようでは意味がありません。新人賞応募、EL応募、大会研究発表申し込みを電子化し、学会活動の国際化と拡充化に向かって前進したいと考えています。幸い、理事会、編集委員会、大会運営委員会でも合意を見ることができ、それぞれの委員会で電子応募の体制が徐々に整ってきています。私たちの研究を世界に向けて発信するためには、ELの電子ジャーナル化も重要な課題の1つであります。EL掲載論文の抜刷を廃止し、著者の方々にはそれに相当するPDF版を差し上げることになりました。

拡充化の一環として、同封のプログラムのとおり「日本英語学会国際春季フォーラム」を開催することになっております。開催校の雑務的な準備は最小限に抑え、皆様の創意と工夫でこの試みを意味のあるものとしてくださいますようお願い申し上げます。

日本英語学会国際春季フォーラムのご案内

第25回大会の総会でお知らせしましたが、第1回日本英語学会国際春季フォーラムを以下の通り開催します。同封のプログラムをご覧の上、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2008年4月26日(土)・27日(日)

場所：東京外国語大学

(〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1)

第26回大会のご案内

第26回大会は次の通り開催される予定です。

日時：2008年11月15日（土）・16日（日）

場所：筑波大学

（〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1）

会員の方は奮って研究発表にご応募下さい。応募締め切りは**4月1日（火）24時（必着）**です。なお、このたび**応募規定が大幅に改定されました**（以下の記事参照）ので、応募される方は新規定をご確認のうえ、遵守されるようお願いいたします。

研究発表応募規定の改定について

昨年12月開催の大会運営委員会において、研究発表応募規定が改定されました。26回大会より、発表の応募が電子応募に変更されるなど、大幅な改定となっております。また、応募に際し、「応募用紙」に必要事項をご記入の上添付頂くことになりました。26回大会での発表をご希望の皆様は以下に掲載の新規定を御熟読の上、遺漏なきよう、ご対応をお願い申し上げます。また、新規定（英語版を含む）は学会ホームページ（URLは本紙奥付参照）にも掲載されています。応募論文や応募用紙、大会資料原稿、*Conference Handbook*原稿、*JELS*原稿等の作成例も掲載され、ダウンロードできるようになっておりますので、あわせてご参照下さい。

“Guidelines for Abstract Submission and Paper Presentation” are revised.

The English version of the latest guidelines is downloadable from the website of the English Linguistics Society of Japan:

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/elsj/index.html>

研究発表応募規定（2007年12月2日改定）

1. 発表者は日本英語学会の会員に限る。非会員の場合は、遅くとも応募時に会員になる必要がある。なお、複数名の共同研究の場合は、発表者以外の共同研究者に非会員が含まれていてもよい。
2. 内容は当該大会時点で未発表のものに限る。また、他学会の発表に応募中のもの、他学会で発表が予定されているもの、*English Linguistics*あるいは他学会誌に応募中のもの、掲載が予定されているものを本研究発表に重複して申し込むことはできない。
3. 研究発表は英語の共時的・通時的観点からの記述的及び理論的研究、言語の一般理論に関する研究、または英語と他言語（特に日本語）

との比較対照研究を扱うものとする。

4. 発表の使用言語は日本語または英語とする。
5. 発表時間は、25分以内（別に質疑応答が10分）とする。
6. 応募者はA4用紙4枚以内に発表内容をまとめる。発表内容は、例文および図表の文字・語を含めて、日本語の場合4,000字以内、英語の場合1,500語以内とする。文字の大きさは日英語とも12ポイントとする。参考文献表は別にA4用紙1枚以内でつける。発表要旨の冒頭に題名とキーワード（語または短いフレーズ、5つ程度）を記す。氏名・所属は書かず、本文でも応募者の名前を示唆するような書き方は避ける。要旨本文の末尾に字数（和文の場合）または語数（英文の場合）を明記すること。
7. 応募者は6とは別に、研究発表応募用紙（日本英語学会ホームページ<http://wwwsoc.nii.ac.jp/elsj/index.html>からダウンロード）に、論文題名・氏名（ふりがな）・会員種別（通常・学生・維持）・所属・連絡先住所・電話番号・e-mailアドレス・審査希望分野（以下参照）を明記する。プレゼンテーション用機器の使用は、発表の性格上必然性のある場合に限る。その場合、使用する機器とその使用理由を明記する。審査希望分野は次の中から1つないし2つを選ぶ：
 1. 統語論
 2. 音声学・音韻論
 3. 形態論・語彙論
 4. 意味論
 5. 語用論・談話分析
 6. 歴史言語学
 7. コーパス言語学・語法研究
 8. 認知言語学
 9. 社会言語学
 10. 心理言語学
 11. 神経言語学
 12. その他
8. 応募の締め切りは4月1日24時とする（なお、今後変更がある場合には、ニューズレターに掲載されるので注意すること）。
9. 上記6の文書はメールに添付し、日本英語学会の研究発表受付アドレス（conference-elsj@kaitakusha.co.jp）に送信する。ファイル形式は原則としてPDFとするが、Wordも可とする。記号や特殊フォントなどは、受信側で文字化けや脱落が生じないように、応募者

の責任で確認すること。メールのタイトルは「発表 氏名(例、発表 日本英子)」、添付ファイル名は「発表 氏名(例、発表 日本英子)」とする。研究発表応募用紙も添付する。添付ファイル名は「応募 氏名(例、応募 日本英子)」とする。

10. 銓衡結果は応募締め切り後3ヶ月以内に応募者に電子メールで通知する。銓衡および発表日時の割り振りは大会運営委員会が行う。
11. 採用者は大会資料掲載用の発表要旨、および *Conference Handbook* の原稿を所定の期日までに提出する。これらの書式などは別に定めた通りとする。
12. 大会で発表したのち、その発表内容を原稿にまとめ所定の期日までに提出すれば、*JELS* に掲載することができる。書式などは別に定めた通りとする。

ワークショップの企画募集

シンポジウムが大会運営委員会の企画であるのに対して、ワークショップは、会員の自主的な企画・運営によって、特定のテーマについて発表と自由な討論をしていただく場です。第25回大会では皆様のご協力により、6つのワークショップが開催されました。本年の第26回大会でも11月15日(土)の午前9時30分から12時までをワークショップにあてる予定です。

企画・運営を希望される方は、A4用紙で企画書(ワークショップのタイトル、企画者の氏名・所属、1000~2000字(英文の場合1行65字×1ページ25行で2~4枚、または600~1200語)程度の趣旨)を5部作成(コピー可)し、連絡先(連絡先住所、電話番号、e-mailアドレスなど)を明記の上、**3月31日(月)(必着)**までに次の宛先へお送り下さい。(事務局が移転しますのでご注意ください。)

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-2 開拓社内
日本英語学会事務局ワークショップ応募係

封筒には「従来型ワークショップ企画書」と朱書して下さい。なお、非会員の企画者は遅くとも応募時に入会する必要があります。(入会方法は日本英語学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/elsj/> をご覧ください。)なお、内容に関して、研究発表ならびに *English Linguistics* に応募中または掲載予定のものをワークショップで重複して発表することはできません。

採用された企画には、学会から1件につき2万

円の助成金が支給されます。応募された企画は大会運営委員会が検討し、採用企画については6月に全会員にお知らせする予定です。ワークショップで発表を希望される方は、これをご覧になり、企画者に直接連絡をとっていただくこととなります。多数の応募をお待ちしています。

Student Workshopについて

ワークショップをさらに活発にするために、従来型のワークショップと並行して、第20回大会から Student Workshop が開催されるようになりました。Student Workshop は、大学院生(および大学院を終えた研究生や非常勤講師など)が中心となって企画・運営するものです。一つの大学だけでなく、複数の大学にまたがる研究者の連携も可能です。各会場の参加人数を50名程度に抑え、発表者と聴衆がより自由に話し合えるようにします。発表者は大学院生ないし研究生、非常勤講師などですが、司会者には教員を加えることもできます。Student Workshop が、異なる大学の院生間の学問的な交流を促す機会になれば、と考えています。英語学に関わるテーマであれば、理論や分野は問いません。

応募希望の方は、A4用紙で企画書(ワークショップのタイトル、司会者と発表者の氏名・所属、1000~2000字(英文の場合1行65字×1ページ25行で2~4枚、または600~1200語)程度の趣旨)を5部作成し(コピー可)、連絡先(連絡先住所、電話番号、e-mailアドレスなど)を明記の上、**3月31日(月)(必着)**までに次の宛先へお送り下さい。(事務局が移転しますのでご注意ください。)

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-2 開拓社内
日本英語学会事務局

スチューデント・ワークショップ応募係

封筒には「Student Workshop 企画書」と朱書して下さい。応募時に学生会員もしくはそれに準じる会員(非常勤講師など)であることが条件です。(入会方法は日本英語学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/elsj/> をご覧ください。)なお、内容に関して、研究発表ならびに *English Linguistics* に応募中または掲載予定のものを Student Workshop で重複して発表することはできません。

採用された企画には、学会から1件につき3万円の助成金が支給されます。採用企画については6月に全会員にお知らせする予定です。Student Workshop での発表を希望される方は、これをご

覧になり、企画者に直接連絡をとっていただくこととなります。多数の応募をお待ちしています。

なお、従来型WorkshopとStudent Workshopのいずれにおいても、企画者以外の発表者に非会員が含まれていても構いません。また、発表者と司会者の全員が決まっていなくても応募できます。発表者がすでに決定もしくは予定されていて、採用後、新たに発表者を募る予定のない場合は、応募の際にその旨明記するようお願いいたします。

理事会・評議員会より

○ 会計

2007年度収支中間報告書について事務局財務担当書記より説明があり、理事会および評議員会において承認されました。

○ 役員の異動

・理事（退任）

昨年11月末日をもって以下の理事5氏が任期満了となりました。

大津由紀雄氏（慶應義塾大学）、河上誓作氏（神戸女子大学）、千葉修司氏（津田塾大学）、福地肇氏（東北大学）、山梨正明氏（京都大学）

退任された5人の理事の方々には、これまで学会のためご尽力いただき、誠にありがとうございました。

・理事（新任）

上記の理事5氏の任期満了に伴う理事選挙が郵送により行われ、選挙管理委員の有元將剛氏（委員長）と野沢秀実氏による開票（2007年10月17日（水）名古屋大学において実施）の結果、以下の方々を選出されました。

岡田伸夫氏（大阪大学）、影山太郎氏（関西学院大学）、中島平三氏（学習院大学）、中村捷氏（東北大学）、米山三明氏（成蹊大学）

新理事の任期は、2007年12月1日より2011年11月30日までの2期4年間です。なお、天野政千代氏（名古屋大学）、稲田俊明氏（九州大学）、今西典子氏（東京大学）、大庭幸男氏（大阪大学）、高見健一氏（学習院大学）、原口庄輔氏（明海大学）は理事2期目となります。

・監事（退任）

監事の瀬田幸人氏（岡山大学）が任期満了に伴い、監事を退任されます。これまで監事をお務めいただき、お礼を申し上げます。

・監事（新任）

上記監事退任に伴い、新たに家入葉子氏（京都大学）が会長により監事に推薦され、承認されました。委嘱期間は、2008年4月1日から2011年3月31日までとなります。

・編集委員長（退任）

昨年11月末日をもって、米山三明氏（成蹊大学）が任期満了で退任されました。副委員長としての2年間に加え、編集委員長として2年間という長期にわたり当学会にご尽力いただき、ありがとうございました。

・編集委員長（新任）

昨年12月1日付で、今西典子氏（東京大学）が編集委員長に選出されました。任期は2009年11月30日までの2年間です。

・大会運営委員長（退任）

昨年12月をもって、時崎久夫氏（札幌大学）が大会運営委員長を任期満了で退任されました。1年間委員長をお務めいただき、ありがとうございました。

・大会運営委員長（新任）

昨年12月15日付で、田端敏幸氏（千葉大学）が大会運営委員長に選出されました。任期は本年12月14日までの1年間です。

○ 特別賞の授賞に関する規程の改正について

特別賞の授賞に関する規程の一部が改定されました。下記をご参照ください。

特別賞授賞に関する規程新旧対照表

2007年11月30日改定

| | 旧 | 新 |
|-----|---|---|
| 第2条 | <p>理事は特別賞の推薦を行うことができる。推薦を行う理事は、被推薦者の経歴書、主要な業績書、主要業績3点に関する概要、および推薦理由書を付して、毎年4月30日までに会長に具申する。具申を受けた会長は「特別賞選考委員会」（以下、「委員会」という）を設置する。委員会は推薦された業績の審査に当たり、理事会の議を経て特別賞を決定する。</p> | <p>理事は特別賞の推薦を行うことができる。推薦を行う理事は、被推薦者の経歴書、主要な業績書、主要業績3点に関する概要、および推薦理由書を付して、毎年5月31日までに会長に具申する。委員会は推薦された業績の審査に当たり、理事会の議を経て特別賞を決定する。</p> |

- 日本言語学会シンポジウムへの協賛について
 本学会が協賛する日本言語学会公開シンポジウム「形態論と隣接領域」(参加無料)が、ヨーロッパを代表する3名の形態論研究者を迎えて、下記の通り開催されます。
 日時：2008年6月22日(日)
 場所：学習院大学
 講師：Geert Booij, Angela Ralli, Sergio Scalise, 影山太郎
 詳しくは学会ホームページをご参照ください。

編集委員会より

- ◇ 編集委員会の構成
 昨年11月より、編集委員会の構成は次の通りとなりました。
 (委員長) 今西典子氏
 (副委員長) 稲田俊明氏
 (委員) 大門正幸氏、高見健一氏、外池俊幸氏(以上留任)
 岩田彩志氏、酒井弘氏、田中伸一氏、Brent de Chene氏、寺田寛氏、坪本篤朗氏、西岡宣明氏、松岡和美氏、矢田部修一氏、由本陽子氏(以上新任)

- ◇ *English Linguistics*第24巻2号(2007年秋号)の刊行について
 EL 24. 2(秋号)が刊行されました。一般論文5編、Notes & Discussion 1編、書評論文9編が掲載されています。会員の皆様には、昨年12月下旬に送付されております。

- ◇ *English Linguistics*第25巻1号(2008年春号)の応募論文の査読結果について
 EL 25. 1(春号)に対する応募論文の査読結果は、次の通りです。なお、書評論文には4ヶ月書き直しはありませんので、「審査中」は該当しません。

| | 応募数 | 採用 | 不採用 | 取り下げ | 審査中 |
|---------|-----|----|-----|------|-----|
| 一般論文 | 8 | 3 | 5 | — | 0 |
| N&D | 3 | 2 | 0 | — | 1 |
| 書評論文 | 10 | 8 | 1 | 1 | |
| 4ヶ月書き直し | | | | | |
| 一般論文 | 6 | 1 | 3 | 2 | — |
| N&D | 0 | — | — | — | — |
| 合計 | 27 | 14 | 9 | 3 | 1 |

- ◇ 投稿規定の一部改定(抜刷の廃止)
 EL25巻1号より、これまで執筆者に進呈されていた抜刷が廃止され、掲載論文のPDF版が進呈されることになりました。それに伴い、投稿規定の一部が改定されましたので、下記をご参照ください。

*English Linguistics*投稿規定新旧対照表

2007年11月9日改定

| | 旧 | 新 |
|---|-----------------|----------------------|
| 8 | 抜刷は50部執筆者に進呈する。 | 執筆者には掲載論文のPDF版を進呈する。 |

- ◇ *English Linguistics*第25巻2号(2007年秋号)への投稿について
 2008年12月発行の*English Linguistics*第25巻2号の原稿締切は、2008年4月1日(火)(必着)です。なお、このたび投稿方法等の一部変更がございましたのでお知らせ致します。ご応募の際は、以下の諸事項を十分ご確認下さいますようお願い申し上げます。

*English Linguistics*第25巻2号への投稿についてのお知らせ

日本英語学会では、現在、研究成果の発表や論文投稿に関して、電子版応募・投稿体制へ全面的に移行しつつあります。*English Linguistics*への論文投稿に関しても、26巻以降の電子版投稿体制の確立を目指しまして、25巻2号から電子版投稿を原則的に導入し、審査・編集作業の試行期間と致します。つきましては、以下のような「電子版投稿に関する情報」に従いまして、2008年4月1日締め切りの論文投稿は特別な事情がない限り電子版でのご投稿をお願い致します。なお、25巻2号の電子版投稿・審査の試行においてみられた不具合等を編集委員会と事務局で検討し、電子版投稿・審査体制を整備し電子版投稿に整合する投稿規定を周知して、2008年9月20日締め切りとなる26巻1号以降は*English Linguistics*への論文投稿を電子版投稿のみと致します。会員のみなさまのご理解とご協力をお願い致します。

- ◇ EL25巻2号(2008年4月1日締め切り)への電子版投稿に関する情報
 1. 電子版投稿原稿は、(1)表紙(論文題目、氏名、所属、住所、メールアドレス、謝辞)と(2)

タイトル、100語程度の英文のAbstract、論文本体(本文、引用文献、脚注)の2つの部分から構成される1つの(ファイル作成者名がない)PDFファイルとして応募メールに添付して送付すること。ページ番号は(2)から付す。なお、PDFファイル作成の際、フォント情報は全て埋め込むこととするが、Times New Roman及びSymbol以外のフォントを用いた場合は、その旨をメールに明記する。

2. 電子版投稿の場合、上記のPDFファイルをar-toko@kaitakusha.co.jpに送付する。メールの「件名」は「EL投稿論文」、ファイル名は5文字以内の半角アルファベットとする。メールには論文題目、氏名、および上記1で注記したフォントに関する情報を記す。

上記のアドレスにPDFファイルを送信すると、開拓社から受信通知メールが届く。英語学会事務局からは、その後、PDFファイルの点検後5日以内に受領確認メールが送られる。開拓社からの受信通知メールが一両日中に届かない場合には、PDFファイルを必ず再送信すること。それを怠ると、応募論文が審査の対象になりえない可能性が生ずる。

3. やむをえない事情により郵送で投稿する場合は、原稿3部(コピー可)および(1)表紙(論文題目、氏名、所属、住所、メールアドレス、謝辞)と(2)タイトル、100語程度の英文のAbstract、論文本体(本文、引用文献、脚注)の2つの部分をWORDファイル形式で1つに保存したフロッピーデスクないしCD-ROM(ファイル作成者名がない)を「投稿論文在中」と朱書した封筒に入れて、以下に送付する。なお、ページ番号は(2)から付すこと。

〒113-0023

東京都文京区向丘1丁目5番2号 水上ビル4F
開拓社出版部編集課EL係

受領確認メールは原稿の点検後7日以内に、英語学会事務局から送られる。

4. Article (Abstract、本文、引用文献、脚注)の長さは12ポイントの活字を使用して上下左右に2.5cm(1インチ)のマージンを取り、1頁25行とし、原則としてA4またはレターサイズ40枚(12,000語)以内とする。Abstractは100語程度とする。Notes and Discussionは同様の書式で12枚(3,500語)以内とし、Abstractは付さない。図表等は当該ページの中に組み込む。脚注は別紙にまとめて、本文、引用文献の後に続ける。本文、引用文献、脚注を通して、中央下部にページ番号を

付す。Abstractの下に、論文の内容を集約するキーワードをイタリック体で3~5語句程度示す。

5. 投稿原稿の書式は、電子版投稿に整合するように見直されたELの電子版原稿書式見本(学会ホームページに掲載)によること。紙媒体による論文の投稿規定からの主たる変更点は以下のようである。

i. 下線は本来下線の箇所にも使用し、イタリック体指定には用いない。イタリック体指定の箇所には、イタリック体のフォントを使用する。

ii. 引用記号と区別するために手書き指定の注記が求められているプライムは、プライムのフォントを使用する。

iii. 表紙の上部左端に論文の総語数を記す。

6. 査読結果の通知や修正論文の再投稿等も、電子メールへの添付により行なう。

大会運営委員会より

□ 大会運営委員会の構成

昨年12月より大会運営委員会の構成は次の通りとなりました。

(委員長) 田端敏幸氏

(副委員長) 加賀信広氏

(委員) 井上逸兵氏、小野尚之氏、谷口一美氏、石川一久氏、奥 聡氏、武田修一氏(以上留任) 内堀朝子氏、岡崎正男氏、木口寛久氏、滝沢直宏氏、水口志乃扶氏(以上新任)

□ 第26回大会のシンポジウムの企画について

現在準備が進行中です。詳しい内容は次号の『え〜ごがく』(No.49)でお知らせいたします。

□ JELS 25について

JELS 25は、現在、第25回大会運営委員長の時崎久夫氏に編集をしていただいています。第25回大会で購入の申し込みをしていただいた方には、3月末にお届けする予定です。

□ 第25回大会の報告

第25回大会は、2007年11月10日(土)・11日(日)の両日、名古屋大学(東山キャンパス)において開催されました。本大会では、6つのシンポジウム、35の研究発表、6つのワークショップが行われました。大会2日間で638名の参加者があり、盛会裏に終えることができました。JELS 25については216部の購入申し込み

がありました。今回も各出版社から書籍の展示をしていただき、本大会では28社の展示がありました。大会運営を支えて下さった開催校の先生方や大会運営委員の先生方、そして参加された会員の皆様のご協力に対して、心より御礼申し上げます。また、今回も大会運営に関する貴重なご意見を多数いただきありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

学会賞選考結果

○ 新人賞選考委員会より

2007年度日本英語学会新人賞には、4編の応募がありました。残念ながら受賞作に該当するものはありませんでした。

○ 特別賞選考委員会より

神田外語大学名誉教授、井上和子氏に日本英語学会特別賞が授与されました。専門の生成統語論にとどまらず、幅広い分野に及ぶ研究業績があること、国際的研究交流に多大の貢献をし、国際会議の日本での運営等の国際的貢献があること、さらに、現在活躍中の多くの研究者を育成してきたことが評価されました。氏には大会総会にて、賞状とともに、副賞と記念品が贈呈されました。

また、日本英語学会創立25周年を記念して、東北大学名誉教授・静岡精華短期大学名誉学長、安井稔氏に日本英語学会特別功労賞が授与されました。氏は日本の英語学の研究教育において長年にわたり中心的役割を果たし、本学会創設に当たっては、初代会長として学会の基礎を固めるとともに学会の発展に貢献し、その後も顧問として本学会の発展に貢献し続けたことが評価されました。氏には大会総会にて、賞状と記念品が贈呈されました。

「日本英語学会新人賞」論文募集のお知らせ

第6回（2008年度）の「新人賞」論文の応募について、次の変更点があるのでご注意下さい。

応募方法：電子投稿のみ受け付ける

締切：2008年8月25日必着

なお、応募に関する細目については、学会ホームページに掲載される「新人賞応募に関する細則」改訂版をご覧ください。また、7月に予定している

ニューズレターにも掲載致します。

日本英語学会2007年度収支中間報告

2007年10月1日現在

【収入内訳】

| | |
|------------|-------------|
| 2006年度より繰越 | ¥8,895,200 |
| 会費 | ¥5,647,000 |
| 科研費・利息 | ¥1,600,000 |
| 利息 | ¥4,529 |
| 雑収入 | ¥54,000 |
| 合計 | ¥16,200,729 |

【支出内訳】

| | |
|----------|------------|
| EL 刊行費 | ¥2,325,104 |
| NL 等印刷費 | ¥33,000 |
| 業務委託関係費 | ¥1,336,638 |
| 委託費 | ¥531,920 |
| 発送費 | ¥804,718 |
| 大会関係費 | ¥568,984 |
| 印刷費 | ¥271,803 |
| 運営費 | ¥297,181 |
| 謝金 | ¥0 |
| 委員会関係費 | ¥870,902 |
| 旅費 | ¥829,000 |
| 会議費 | ¥41,902 |
| 事務局関係費 | ¥1,563,105 |
| 賃貸料 | ¥0 |
| 人件費 | ¥1,322,310 |
| 通信費 | ¥109,710 |
| 消耗品費 | ¥109,105 |
| 謝金 | ¥0 |
| 交通費 | ¥21,560 |
| 資料コピー | ¥420 |
| その他 | ¥0 |
| 新人賞・特別賞費 | ¥0 |
| 記念品 | ¥0 |
| 副賞 | ¥0 |
| 賞状 | ¥0 |
| JELS関係費 | ¥85,200 |
| 合計 | ¥6,782,933 |

| | |
|------|-------------|
| 収入 | ¥16,200,729 |
| 支出 | ¥6,782,933 |
| 差引残高 | ¥9,417,796 |

事務局より

- 会員3名の方よりご寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。

- 著作権規程について

English Linguisticsの電子化に向けて、著作権規程が制定されました。これまでに掲載された論文の著作権が日本英語学会にあることを明示した内容になっています。学会ホームページをご覧の上、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

- 事務局の移転について

2008年4月より、事務局が桐原書店から開拓社に移転します。上記のワークショップの企画や下記の学生会員登録、およびその他のご連絡は、以下の住所にお送りください。

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-2
開拓社内 日本英語学会事務局
(03) 5842-8900

- 学生会員の登録について

2008年度に学生会員として登録を希望される方(今年度からの継続を含む)は、以下の要領でお申し出ください。申告期間の終了直後に2008年度の会員種別を確定し、会費請求をさせていただきます。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますので、ご注意ください。

- ◇申告資格: 「学生」の意味を広義に解釈し、研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者、および外国の大学の日本校の学生も含まれるものとします。

- ◇申告期間: 4月1日より4月25日(必着)

- ◇申告方法: 会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称を記した用紙に、4月以降に学生であることを証明する以下の(1)から(4)のいずれかの書類を添付して、上記の事務局宛に「学生会員登録希望」と必ず朱書き上郵送してください。

- (1) 在籍する学校の発行する在学証明書
- (2) 学生証のコピー
- (3) 進学する学校・課程の合格通知のコピー
- (4) 指導教官(所属明記)の署名(捺印)と説明の言葉

なお、専任の勤務を持たない大学院修了者は、元指導教員(あるいはそれに相当する立場の教員)に説明の言葉を書いてもらい、それに署名(捺印)してもらったものを提出してください。

いずれの場合も必ず封書でお願いします。な

お、申告された後に事情の変更が生じた場合には、事務局にお申し出ください。また、何か不明な点がある場合にも、事務局までご連絡ください。

- 会費納入のお願い

今年度の会費をまだ納入されていない方は、学会支援機構から送られた振込用紙で至急納入いただきますようお願いいたします。会費を2年間滞納されますと、会員規定第3条第4項により自動的に退会扱いになりますのでご注意ください。

- 入退会希望、住所等の変更について

これらについては、学会支援機構に電話、ファックス、あるいは文書でお知らせいただくか、または学会ホームページからメールにてお願いいたします。

編集後記

昨年4月に新事務局が発足して、まもなく1年が経とうとしています。事務局メンバーは多くの仕事に悪戦苦闘しながらも、学会役員の先生方や前事務局の方々からの温かいご支援により、何とか現在まで務めることができました。昨年は事務局が大会開催校でもあるという珍しいケースで、行き届かぬ点が多々あったかと存じますが、何とか無事に大会を終えることができました。

昨年からの新人賞応募の電子化が始まり、それに続いて今年4月よりEL投稿と研究発表応募の電子化がスタートします。これは応募の簡便さや審査結果通知の迅速化だけではなく、通信費の削減にもつながります。会長挨拶にあるような財政状況ですので、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

今年もいくつもの改革がありそうですが、最も大きなものは、4月26日・27日に東京外国語大学で開催される国際春季フォーラムです。現在、実行委員会、大会運営委員会、開催校、事務局等で準備を進めております。今年から始まる新たな試みですので、ぜひご出席・ご協力いただきますようお願い申し上げます。

(田中)

2008年1月31日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 天野 政千代

発行所 日本英語学会

<http://www.soc.nii.ac.jp/elsj/>

〒166-0003

東京都杉並区高円寺南2-44-5 桐原書店内

電話 (03) 3314-8181



古紙配合率70%再生紙を使用しています